

特別講義

2016.2.12 (Fri) 17:30～

大阪大学医学部講義棟 A講堂

原 丈人

George Hara

「医学の使命」

大阪出身。子供のころにシュバイツァー博士の伝記を読み医学とアフリカに強い関心を持つ。カエルの解剖で医師になるのは諦めたがアフリカへの情熱は膨らみ、後に国連政府機関特命全権大使となり、現在もアフリカで栄養不良による幼児死亡率の削減を行う事業に取り組む。在学中に鉄道（後に、鉄道模型製作を生涯の趣味としていた父の為に原鉄道模型博物館をつくる。初代館長は父、信太郎氏）を追いかけてエルサルバドルに渡るがそこで見た遺跡群に魅せられ中央アメリカ考古学を志し27歳まで研究を行う。同時期に熱帯感染症の脅威にさらされ、改めて医学が人を救うことの意味を知った。渡米し79年にジェネンテック創業者の銀行員と学者に出あったことがきっかけとなり後に、ノーベル賞受賞者のアーサー・コーンバーグ博士門下に入る。81年に米国発の光ファイバー事業会社を創業し、その後、幾つもの先端技術企業を米欧イスラエルで立ち上げた。世界最初の遺伝子治療ベンチャーのバイアジーンや、世界初のアンチセンス創薬ベンチャーのアイシス、世界初のバイオインフォマティクス・ベンチャーのアリス・ファーマス्यूティカルなどバイオベンチャーにも創業期から出資し成功させた。現在も、世界最大の血液データベースをつくりその血液をiPS化し将来の治療に備えて保存するボストンのバイオベンチャーの社外取締役をつとめる。90年には、父が理事長を務める財団をつくり、生命科学と情報科学の境界域の研究者に対する論文発表渡航費のためのフェローシップの提供をはじめ現在までに400名以上が受けた。（本日聴講の大学研究者もどんどん活用してください）サンフランシスコ大学、動物園、オペラの理事として経営再建にかかわったり、首相諮問、大統領顧問など日米欧アフリカ政府、国際機関の公職をつとめ現在、内閣府参与、ダボス会議評議員。山中教授、澤教授など世界の再生医療のトップが集まるサンフランシスコ・ワールド・アライアンス・フォーラム会長。公益財団 原財団（原総合知的通信システム基金）を主宰。著書「増補21世紀の国富論」（平凡社）にもあるように慎重ながらも大胆に独立独歩の道を歩む。



大阪大学大学院医学系研究科 招聘教授
米国先端基礎医学研究機構 ソーク研究所 国際評議員
国連経済社会理事会特別諮問機関 アライアンス・フォーラム財団 代表

お問い合わせ: 未来医療開発部 dmi@dmi.med.osaka-u.ac.jp 06-6210-8289